

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2015年6月13日(土)～14日(日)
@つくば国際会議場(茨城県つくば市)

ワークショップ 29	
タイトル	『Medical Generalism』を学ぶ Part 2
日時	6月14日(日) 9:40-12:00
企画責任者	葛西 龍樹 (委員会企画: 国際キャリア支援委員会)
定員	48名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>英国家庭医学会が2012年に出版した『Medical Generalism: Why expertise in whole person medicine matters』の日本語版『メディカル・ジェネラリズム: なぜ全人的医療の専門性が重要なのか』が日本プライマリ・ケア連合学会のホームページに公開されるので、この文献に盛り込まれた内容のエッセンスについて、議論しながら理解を深めます。</p> <p>【概要】</p> <p>「総合的に診ることの専門性って何?」「ジェネラリストであるということは、そもそもどういうこと?」など周囲の人から聞かれたり、自分でふと考えたりしたことはないでしょうか。近年、プライマリ・ケアや家庭医療の概念がグローバルなものとして確立され、国の保健医療制度の中での重要性が高まりつつある中、ジェネラリズムの本質についての議論、そして変わりゆく社会のニーズに応じてジェネラリズムがどのように発展していくことができるのかについての議論が、今、これまで以上に求められ、必要とされています。このセッションでは、オランダ Radboud 大学の Evelyn van Weel-Baumgarten 先生、英国 Cambridge 大学の Greg Irving 先生の2名のアカデミック家庭医の力を借りて、英国家庭医学会と韓国家庭医学会から短期留学プログラムで来日予定の家庭医療専門医や後期研修医も加わる国際ワークショップを開催します。形式は3ラウンド程度のワールド・カフェ方式で行い、その合間に議論を深めるための指定発言を含めます。2014年の日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(岡山)で開催したワークショップ Part 1 と合わせた成果は、日本プライマリ・ケア連合学会誌などへ投稿予定です。なお、この『Medical Generalism: Why expertise in whole person medicine matters』の主著者で次期 WONCA 会長の Amanda Howe 先生を招く本学会主催のサテライトワークショップが4月11日に開催されます(参加申込方法は学術大会とは別に案内されます)。両方に参加することで『Medical Generalism』についての議論と理解をさらに深めましょう。</p>	